

## クマと人、共存に向けた環境教育

望月 義勝  
(東中国クマ集会)

東中国クマ集会では、近年社会問題となっているクマ問題に取り組んできましたが、特にこの5年間は「環境教育」に注力してきました。クマ問題の解決の難しさのひとつに、都会に居住している人たちとクマの生息地に居住している人たちとの間にある「ツキノワグマの保護に関する意識」の乖離があります。私たちは、その意識の違いを認識しつつ、「正しいクマの生態学的知識の普及による、軋轢の軽減」「西日本の地域個体群の現状認識のコンセンサス」「科学的なデータに基づいた、保護管理の必要性の認知」を目的として「クマ学習会」などの環境教育プログラムを企画・立案・実施してきましたが、今回は、そういったプログラムのプランニングに活かすための基礎資料として、各地域間のツキノワグマに関する意識の違いを明確化するために、アンケート調査を行いました。その途中結果をご報告いたします。

アンケートの実施対象地域としては、①ツキノワグマの出没が多い地域②ツキノワグマが生息していない都会③ツキノワグマの出没がまれにある、または将来的に出没が予想される地域の3つにカテゴリーを分けて比較しました。まず、ツキノワグマが自然環境下で食べているもの(図1)として、どの地域も「アユ」「サケ」などの魚を挙げている人が多くいました。これは、ヒグマの木彫りの置物やテレビの影響が強いのではないかと推測されました。一回の産子数(図2)に関しては、都会の小学生が4~5頭・6~10頭という間違った回答があわせて66%と他の地域と比較して高いものでした。クマの大きさ(図3)に関しては、正解の50~150キロがいずれの地域でも10%以下と低く、中には2t以上と答えている回答者も生息地の小学生で14%くらいいました。ツキノワグマを見たことがあるか(図4)という問いには、生息地地域の方はやはり「庭先」や「道の傍」で見たという人がかなりいました。ツキノワグマを見

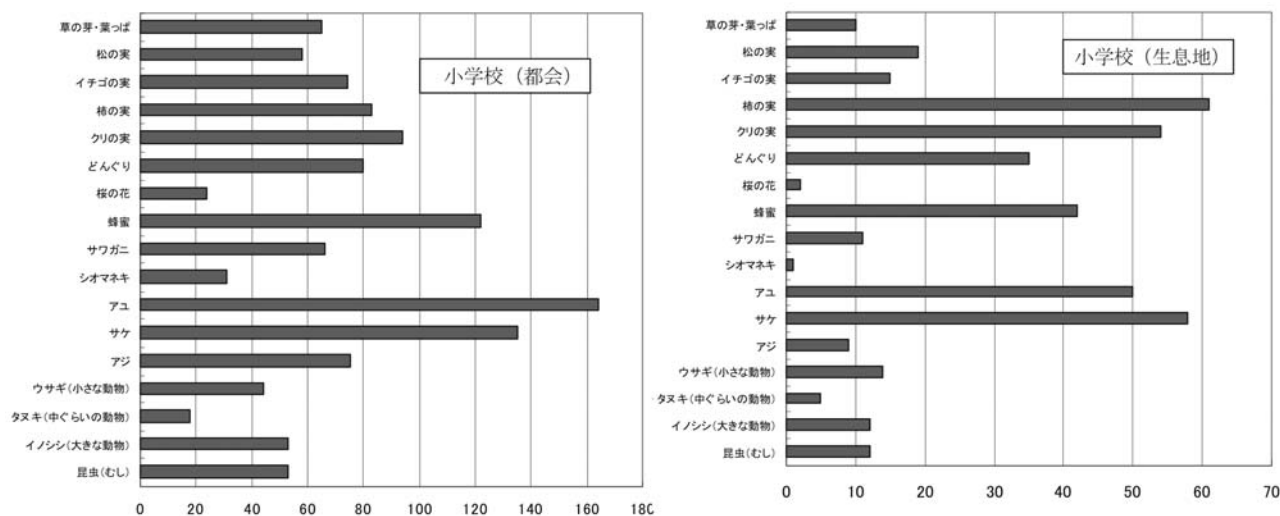


図1 ツキノワグマが自然の中で食べているものは何でしょうか？

た時どう思いましたか（図5）という問いには、都会の人では「さわりたい」「かわいい」という答えが生息地地域と比較して高くなっていました。これは、写真やテレビだけでクマを見ている人と、実際にクマを見ている人との明確な違いとして現れているようです。クマの増減に関する質問でも、生息地の人は近年のクマの里山への頻繁な出没から「増えている」と回答する方が63%、それに比較して都会の住民は「減っている」が76%と回答しており認識の大きな違いが浮かびあがりました。また、クマの出没に対する対策に関する回答として、生息地の人は「生息地の整備」と回答する方も少なからずいますが「駆除」と回答する方がもっとも多く、都会の方では「駆除」はもっとも低く「生息地の整備」がもっとも高い結果となりました。

野生動物の問題に取り組む「野生動物管理官」いわゆる専門官に対して期待する事という自由記述では「必要なし。期待しない。」「ツキノワグマを必要としないので保護管理官はいらない。」「保護管理官さんクマに遭われて経験なさらないとわれわれの言っていることをわかっていただけないと思います。」など厳しい意見がありました。

今回のアンケート結果を踏まえながら、今後より各地域特性を考慮した環境教育プログラムを実施していきたいと考えています。

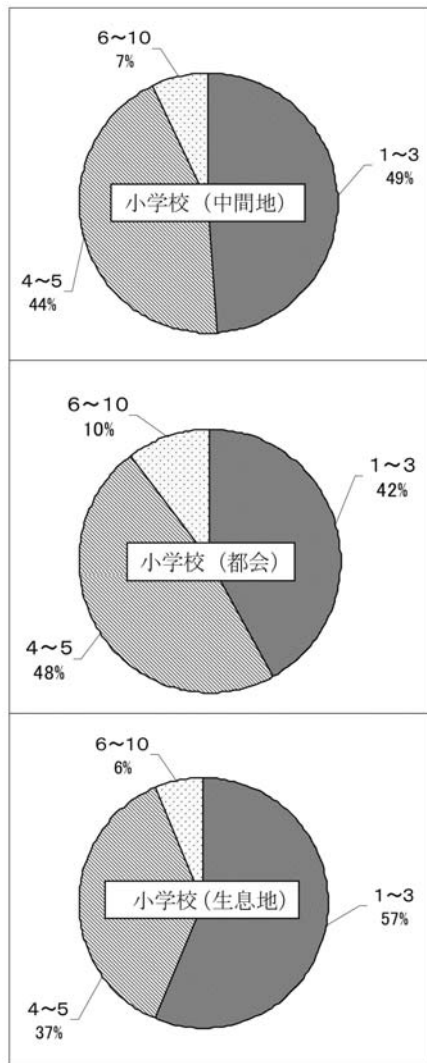


図2 ツキノワグマは一度に何頭の子供を産みますか？

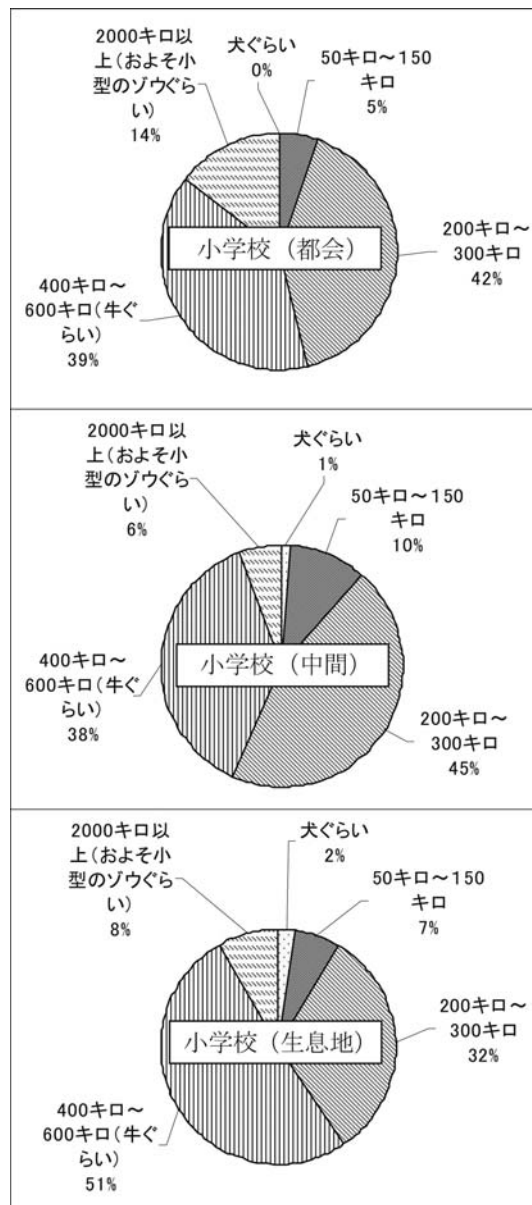


図3 ツキノワグマのオスは大人の人間と比べてどれくらいの大きさですか？

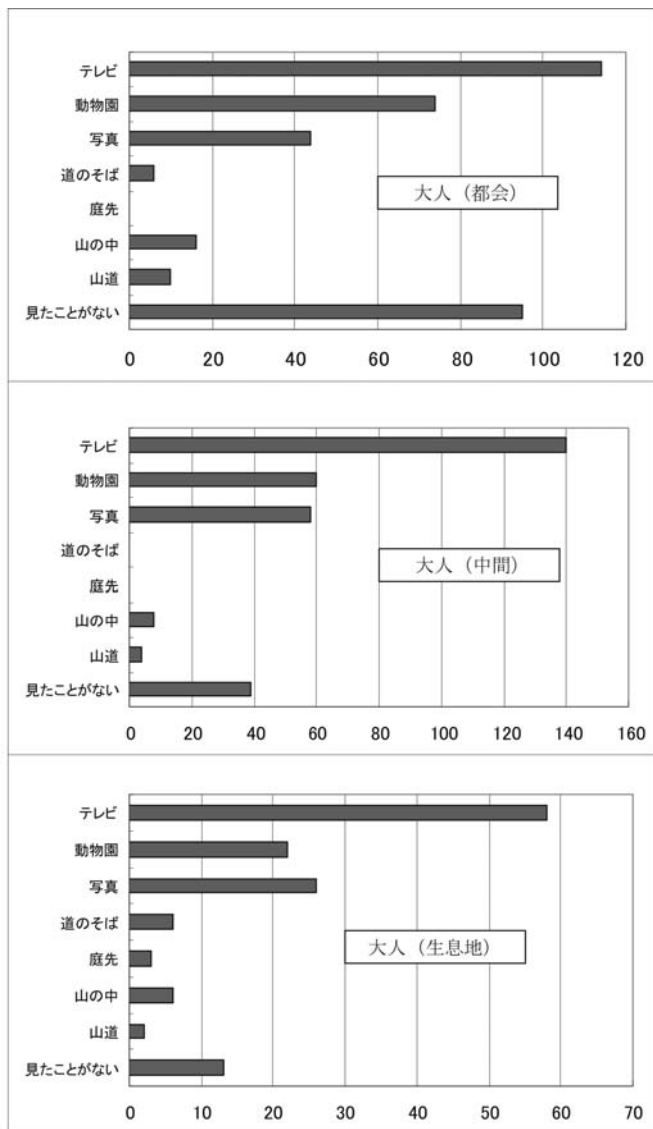


図4 ツキノワグマを見たことがありますか？  
それはどこですか？

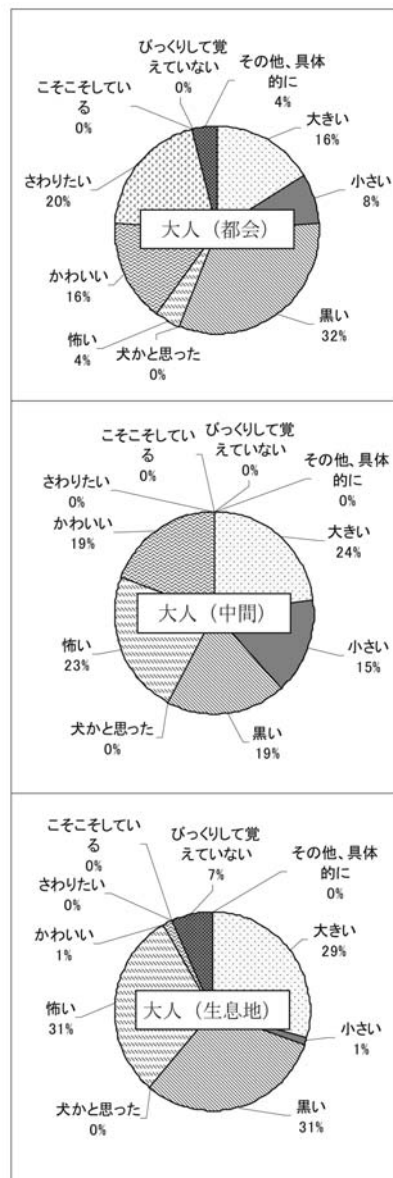


図5 ツキノワグマを見たときはどう思いましたか？

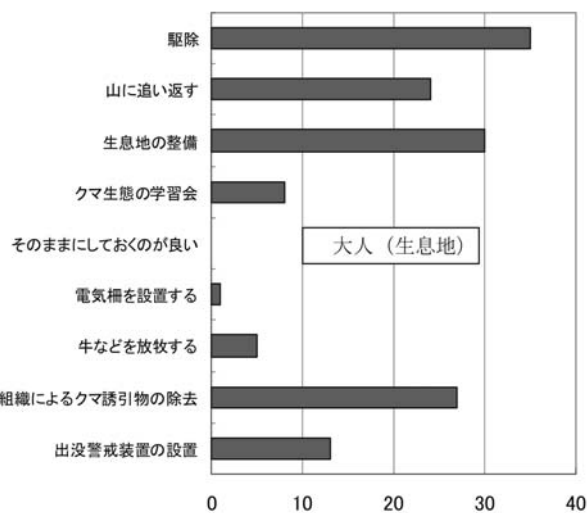
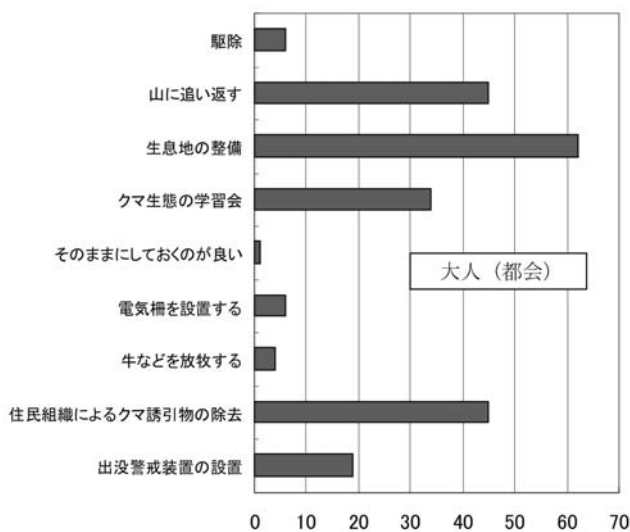


図6 クマが里に降りてくることに対してとるべき対策は？